

BYOD端末の利活用について

山梨県立韮崎高等学校 教諭 勝木爵慶

(ICT教育推進リーダー・1学年担当)

0. はじめに

1. 本日の内容について

- BYOD端末が利活用できるまで
- BYOD端末の利活用の状況
- BYOD端末の課題点
- 教科「情報」との関係性
- 周辺機器
- その他

2. BYOD端末が利活用できるまで

(1) 4月当初

- Microsoftアカウントの提示
- 初期パスワードの変更
- Microsoftアカウントでできることの理解促進
(※主にTeamsを利用する方法について)

【学年集会時に30分程度で説明】

→モバイルでのTeams運用開始(連絡事項にて利用)

2. BYOD端末が利活用できるまで

(2) 6月上旬【キitting作業】

- ECサイト以外での購入端末の初期設定
- 総探とLHRの2hでキitting作業実施
(6クラス＋ECサイト以外：計7クラス)
(クラス担任＋支援員3名＋情報係2名で対応)
- ※入力ミスによる作業停滞あり
- ※ECサイト利用か否かの事前調査が必要

→BYOD端末の利用開始

2. BYOD端末が利活用できるまで

(3) その他

- Windows updateの実行を定期的に促す
- 端末忘れ, 充電不足等への対応
- パスワードの変更

3. BYOD端末の利活用の状況

(1) 各教科で授業中にどう活用しているか

【国】・自分の考えを共有シートに入力

【数】・自分の解答をコラボレーションスペースで共有

【英】・英文を画面共有して解説

【理】・調べ学習をして、プレゼン資料作り

【他】(総探)グループでファイル共有→プレゼン資料作り

(全体)padletを利用して考えの共有

※授業中に使用することはハードルが高いイメージ

3. BYOD端末の利活用の状況

(1) 各教科で授業中にどう活用しているか

【国】・自分の考えを共有シートに入力

【数】・自分の解答をコラボレーションスペースで共有

【英】・英文を画面共有して解説

【理】・調べ学習をして、プレゼン資料作り

【他】(総探)グループでファイル共有→プレゼン資料作り

(複数)padletを利用して考えの共有

※授業中に使用することはハードルが高いイメージ

3. BYOD端末の利活用の状況

(2) その他の場面

- CBT形式(公平性の担保が課題ではある)
- レポートや課題の提示, 作成, 提出, 回収
- 連絡事項(リマインダー機能としても有効)
- チャット機能にて欠席した生徒への対応
- (予定) アカウントの取得, プログラミング

※授業以外の場面は積極的に使っているイメージ

4. BYOD端末の課題点

(1) バッテリー関連

- ・約1年ぐらいでダメになる端末あり
- ・ちょっとだけ充電したい

(2) 購入費用

- ・補助システムの「逆転」の可能性

(3) スペース面（机上&カバンの中）

- ・紙媒体も必要か

(4) 小中でタブレットのケースがあり

- ・プラットフォームの違いもあり

5. 教科「情報」との関係性

- (1) 端末利用→PC室の空き状況の考慮不要
 - ・ 時間割変更しやすい
 - ・ (講師が複数いれば) 同時展開可能
- (2) 教科横断的な扱い
 - ・ 時間数不足解消
 - ・ カリマネの視点

6. 周辺機器

(1) 黒板上のモニター

- 準備に時間はかからない。一方で...

(2) タッチペン

- 反映精度
- 利用できない端末を購入してしまった
- パッドとの相性

7. その他

- 「効果的な」活用方法
- 個別最適化

※複線型の授業展開に向けた一助となる